

## 2019年度 第9回 理事会 抄録

日時： 2020年1月12日（日） 9：30～12：00  
場所： 田町カンファレンスルーム  
出席： 理事： 半田、内山、斉藤、森本  
大淵、小川、梶村、清宮、黒澤、佐々木、白石、大工谷、高橋（哲）、  
高橋（仁）、田中、谷口、友清、中川、藤澤、松井、吉井  
監事： 太田、辺土名  
欠席者 理事： 網本、山根  
監事： 長澤

### I. 審議事項

（全4題）

1.第55回日本理学療法学会研修大会 2020in おおいたの企画案・予算案修正について (斉藤副会長)	承認
<p>2019年4月理事会承認済みの企画案、予算案について、開会式、次期大会長挨拶の予定を2部制「Opening ceremony&amp;Meet the mentor」に変更することで提案がなされ、名称を再検討することを条件として承認された。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・1日目の夕方に行うものを「Opening」とつけるのが妥当かどうか検討してほしい。</li><li>・役員に出席の要請がされたが公務として行くのか。理事会があるのかなどが決定していない段階なので、任意であればそれを明確にしてほしい。</li></ul>	
2.新会館建設資金借入について (半田会長)	承認
<p>新会館建設費について、会館建設積立金が5億5千万円不足していることをうけて、2020年3月の中間払いのために3億円を固定金利にて借り入れすることが承認された。 なお、本借り入れは千駄ヶ谷の会館売却により完済することを想定している。</p>	
3. 新生涯学習制度について (斉藤副会長)	承認
<p>12月に実施したパブリックコメントの意見を踏まえて修正した制度案が提示され、承認された。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・登録理学療法士の更新要件について、年間数万人規模で更新することになるが、事務局の作業負担が大きくなるのではないかと。</li><li>→自動で反映できないものはあるが、会員がマイページ上で証明書を添付し、協会もしくは士会が確認することで対応する予定。</li><li>・登録理学療法士、認定・専門理学療法士のどちらも更新しなければいけないのか。</li><li>・認定理学療法士を更新すると登録理学療法士も更新されるほうがよいのではないかと。</li></ul>	

- どちらも更新しなければいけない。
- ・カリキュラムコードが193項目あるのは多いのではないか。
  - ・カリキュラムコードでポイント認定されるが、単位が違うのは時間によるだけか。その場合、上書きできないのであれば、3ポイントもらえる研修会に人が集まってしまう。複数の研修会を受けたら上限ポイントまで加算されるようにしてほしい。
  - ・登録理学療法士の更新ポイントで指導することでポイントが付くという考え方はよいが、指導が出来ない規模の施設の場合はポイント習得が難しいのではないか。  
→「その他の方法での取得」の部分であり、カリキュラムコードに準じた学習により大半の方が更新のためのポイントを取得できると考えている。
  - ・症例標準評価登録は患者さんの同意も必要になってくるが、その手続きをどう考えているか。  
→協会内の倫理委員会等で検討していく。  
→オプトアウトしなければいけないなど、各種の課題がある。運用後に厳しくなる可能性もあるので、ビッグデータの蓄積はすばらしいが、検討が必要。
  - ・試験委員会の外注について、認定領域によって統一できないこともあると思う。  
→検討する。
  - ・認定理学療法士を受けられる要件がそろったらマイページ上で通知を出すなどの仕組みがほしい。  
→検討している。
  - ・ヘルスデータ（自身の健康関連情報）はどのような項目を検討しているのか。ポイントとして付与する内容かということは検討が必要と思うが、データを集積して分析することは効果がある。
  - ・〇年目という書き方は、入会からの年数と解釈する会員がいるかもしれない。登録〇年目という書き方にしてはどうか。
  - ・登録理学療法士6回目の更新について、経験年数でよしとすることを検討してほしい。  
→若手の意見はまた違うかもしれない。検討する。
  - ・P21の領域となると細かくなり、全国での研修会実施が難しいのではないか。
  - ・専門理学療法士は学会、認定理学療法士は協会が運営する話があったが、それはどうなっているのか。
  - ・専門の定義について、「理学療法学としてより高い…」とあるが、「理学療法としてより高い…」ではないか。主語がわからなくなる。「深め」を「構築し」にしたほうがわかりやすいのではないか。
  - ・専門の口頭試問について、協会の委員会が指定した雑誌の査読がされた論文の口頭試問をする意味があるのか。査読を通過していれば落ちることはないのではないか。  
→落ちないということは断言できない。論文だけでなく、その分野のテキストから試問する。
  - ・口頭試問はいらないと考えている。簡単なペーパーでよいのではないか。
  - ・外部ということは医師を想定しているのか。  
→そのとおり。
  - ・認定理学療法士の取得手順は、すべてを取得する必要があると思うが、提示されたカリキュラムは登録理学療法士の方がなじむのではないか。
  - ・大学院の授業を認定することは考えていないのか。  
→考えていない。
  - ・個人の意識に任せると進まない可能性があるので、一定数以上の登録理学療法士がいる施設が認証される仕組みは検討していないのか。  
→検討していない。
  - ・院内での研修会をしている施設もあるので、ポイントの互換性をしてもらえないか。  
→登録理学療法士において、士会の認定があればポイント認定されることとしている。
  - ・認定理学療法士制度委員会がかなりの権能をもつのではないか。生涯学習課が主な権能を持ち、他にはそこから一部を移譲するものと思っていた。会長が諮問した事項まで入れるのか。(2)の表現を変えて(3)

は消すべきではないか。

- ・専門理学療法士は学会が運営の多くの部分を担うという認識がある。任す部分を明確にする必要があるので検討してほしい。学会の役割が改革されていくところなので、その場合でも実行されるようにしたほうがよい。
- ・認定理学療法士指定研修カリキュラムの10は、1～9と性質が違うので、その時々によって必要と思われる項目が変わることを記載してはどうか。
- ・総合理学療法士の概念が制度のイメージ図から抜け落ちている。残された課題をどこかにまとめてはどうか。
- ・パブリックコメントの意見について、どう対応したか、〇%の意見を吸収した、などの報告を、急ぐものではないが提示してはどうか。
- ・認定理学療法士のカリキュラムイメージの選択部分について、特定の手技名が書いてあるが、そうすると特定の手技を入れなければいけないという認識をされてしまうかもしれない。早期離床、などがよいのではないか。また、脳卒中・循環器法に付いて入れたほうがよいのではないか。
- ・複数の認定・専門理学療法士を持っている方の更新が大変になる。登録理学療法士の更新が含まれるようにしてほしい。
- ・取得者の割合を今より低い目標値にすることで価値を高めるという考え方もあるので意見をいただきたい。
- ・タスク・シフティングの会議で研修を受けた〇〇という話題が出ることもある。報酬改定で作られた項目が実施されていないことについて信用が落ちてしまう。研修会で対応することを検討してほしい。

4. 新入会員の承認について	(半田会長、内山副会長、斉藤副会長、森本副会長)	承認
<p>2019年11月16日～2020年1月1日の間、新たに申請をした正会員215名の入会について承認された。また、復会者29名、休会者239名、退会者111名、休会経過退会追加1名、休会経過退会取消1名、未納退会取消1名であったことが併せて報告された。</p>		

## Ⅱ. 報告事項

(全16題)

### 1. 2019年度 第3四半期職務執行状況報告

(半田会長、内山副会長、斉藤副会長、森本副会長、大工谷専務理事、高橋(哲)常務理事、吉井常務理事、網本常務理事、梶村常務理事、黒澤常務理事、白石常務理事)

2019年度第3四半期の業務執行状況について報告された。

#### 【主な意見】

- ・オリパラのボランティアについて、士会に支援依頼があったが、研修会受講、当日運営も自費となっている。協会としての支援はないのか。  
→事前研修会は参加費を無料としている。宿泊・交通費はボランティア募集時点で自己完結型という形を取ったので協会としては支援しない。宿舎も養成校にあたったが防犯上難しいという回答だった。
- ・ロシア、シンガポールの国際支援はどうなったのか。  
→ロシアについては先方の医学会と生涯学習について講演することとなり、半田会長・内山副会長で現地視察などもしたが、先方のキーパーソンが組織から外れるなどの事象があり、今年はオファーが来ていない。  
シンガポールはNHSと2年間の提携が終了。1名は先方が雇いあげして継続。1名は派遣終了。予防事業をASEAN地域にどう輸出していくか、基礎的な調査をしようと面談など行ったが事業化にはいたっていない。
- ・住民主体の通いの場、シルバーリハビリ体操のコンセプトはやや違うと思っている。横の連携としてどう整理されているのか。地域リーダーが主体で動くというのは古い型と言われている。  
→シルバーリハビリ体操は住民教育、住民主体型の通いの場に行ってもらうかたち。老健局からも評価されている。

### 2. 専従役員行動録について(12月)

(半田会長、斉藤副会長、森本副会長、大工谷専務理事)

専従役員の12月分の行動録について報告された。

### 3. 事務局報告について(12月)

(大工谷専務理事)

12月の事務局報告がなされた。

### 4. 2020年度収支予算概況について

(大工谷専務理事)

2020年度収支予算概況について精査されたものが報告された。3月の理事会にて最終精査を行ったものを審議にかける予定である。

### 5. 本会所有不動産売却に係る仲介業者入札結果について

(半田会長)

本会所有不動産売却に係る仲介業者について入札を行ったことが報告された。

6.理学療法ガイドライン第2版出版委託企業の選定について

(高橋(哲) 常務理事)

理学療法ガイドライン第2版出版委託企業の選定について、2019年12月7日の常任理事会で示された議題への対応について報告された。

7. 税務調査の報告

(大工谷専務理事)

2019年10月21日・23日の2日間に実施された税務調査の結果について報告された。

8. 「専門理学療法士ならびに認定理学療法士資格取得および更新に関わる履修ポイント基準」の一部改定について

(斉藤副会長)

「専門理学療法士ならびに認定理学療法士資格取得および更新に関わる履修ポイント基準」について、一部改定を行ったことが報告された。本改定は2020年1月より適用される。

9. 2020年度理学療法講習会について

(半田会長)

2020年度理学療法講習会について、公募の結果244件の申請があり、34件の助成が決定したことについて報告された。また、部門の研修会については10件の申請(内2件は助成金有)があったことが報告された。

10. 2020年度理学療法にかかわる研究助成の公募について

(高橋(哲) 常務理事)

2020年度の研究助成募集要項について報告された。

11. 理学療法学入札結果について

(高橋(哲) 常務理事)

理学療法学に係る出版委託業務について入札を行ったことが報告された。

12. 会報誌「JPTA NEWS」制作業者の選定(入札結果)について

(吉井常務理事)

会報誌「JPTA NEWS」の制作業者選定にあたり入札を行ったことが報告された。

13. 定期刊行物発送業務の入札結果について

(大工谷専務理事)

定期刊行物発送業務の入札結果について報告された。

14. 令和元年度日本理学療法士教員協議会 報告書について

(半田会長)

全国大学理学療法教育学会と共催した「令和元年度日本理学療法士教員協議会」について、報告書が提出されたことが報告された。

15. リカレント支援事業 ブロック情報交換会 報告書

(半田会長)

リカレント支援事業として関東甲信越、東海北陸、四国、九州の4ブロックにて開催された情報交換会の会議について報告された。

16. 常任理事会 会議報告 (12月7日)

(大工谷専務理事)

12月7日に開催された第9回常任理事会の結果について報告された。議題は以下の通り。

協議事項：

1. 土会による台風19号に係る災害支援活動費について
2. オーストラリア協会長・CEO 来日スケジュールについて
3. 新人研修ガイドライン骨子(案)について
4. 理学療法ガイドライン第2版出版委託企業の選定について

報告事項：

1. 理学療法士職員(正規職員)採用 経過報告について
2. アニマルワールドカップ2020への対応に関する進捗報告
3. 他団体((公財)ミズノスポーツ振興財団)の研究助成に対する本会の推薦について
4. 2020年度の事業計画・予算案について
5. 理学療法白書2019年度版の発行について
6. 臨床自習中におけるパワハラ訴訟について
7. 運動器の健康・日本協会 令和元年度 第4回理事会報告
8. 運動器の健康・日本協会 令和元年度 第2回学校保健委員会報告
9. 資金繰りについて

以上